

コロナウイルス対策マスク

コロナウイルス対策の取組

中部真栄会

株式会社山下組

なぜ？ 鳶なのにマスク？

今年2月より猛威を振るっている新型コロナウイルス対策としてマスクが必需品となりマスク不足・マスク価格の高騰等で入手困難になり自社・協力業者の健康を守る為に自社で手作りマスク製造を始めた



さまざまなマスクを試行試作していく過程の中で
コロナ終息のめどが立たず



その対応として

コロナウイルスが長期化様相
作業中マスクが必需品となり
夏季に向かって熱中症対応マスクが
必要となりそうなので4月には試作品作成に
入った

試作品作成にあたり

- 熱中症対応試作品の課題
 - 1 マスクをしていても呼吸のしやすいこと
 - 2 ヘルメットをしていても取り外しの容易なこと
 - 3 通気性がよく飛沫防止効果が落ちない事
 - 4 見た目にシンプルで清涼感があること

試作品



試作品は全て社長のバンダナ・Yシャツの残布です

作成の過程

- 試作品を作業員に装着して作業の実施
- 作業員より“空調服の空気をマスクに取り入れてみたら”との提案を受けて改良品を検討
- 試作品の課題をクリアー出来るか検討

改良品

空調服のファスナーにマスクを取付けて
空調服の空気をマスクに取り入れるスタイルに
絞り試作品制作に入る

空調服対応マスク



左 1号 右 改良型

試作品の展開中に

- 試作品が展開中、6月7日中部支店より夏用マスクの実証実験の情報が入り参考
- 当社検討のマスクと方向性が一致していることを確認

NEWS RELEASE  三井住友建設
広報室 TEL.03-4582-3015

2020年6月5日

飛沫感染抑制と熱中症対策のためのフェイスカバリングを全現場に導入
— 現場従事者の命と暮らしを守り、感染拡大防止と事業継続に向けた取り組み —

三井住友建設株式会社（東京都中央区佃二丁目1番6号 社長 新井 英雄）は、熱中症リスクを低減し、飛沫感染を効果的に抑制できるフェイスカバリングを全現場で導入します。当社では、新型コロナウイルス感染症対策として社長を責任者とする緊急対策本部を設置して感染拡大防止に取り組んでいます。5月4日に厚生労働省が公表した「新しい生活様式」においてマスク着用が推奨され、業界中は飛沫抑制に優れ機能性の高い布製マスクの着用を義務付けていますが、夏における屋外作業でのマスク着用は熱中症の発生リスクにつながります。そこで、新日本空調株式会社の協力のもと、身近な材料を用いて効果的に飛沫を抑えるフェイスカバリングを、同社の微粒子可視化システム（VIBST）にて4月末より検証しました。様々な形状・素材・寸法・装着方法の実証実験を行い、現場に試験導入して効果を確認しました。このたびは現場作業時の使用に目途をつけ、今後、現場に従事する当社社員および協力会社作業員の約2万人に順次配布していきます。



【全現場に導入するフェイスカバリング】



【微粒子可視化システムを用いた実証実験の様子】



使用の感想と課題

職長・作業員に使用させての感想

- 1 空気を取入れることにより涼しさは実感
- 2 作業中にマスクが折れて空気が滞る時がある
- 3 息苦しいが改善された
- 4 作業によってズレが生じることがある

など

改善点を変更して再改良品

- 1 つけやすくする為に 耳のゴム部を変更
- 2 圧迫感 息苦しさ改良の為に 上部と鼻の部分のカーブを変更
- 3 折れズレ防止改良の為に クリップ部を変更

現在のマスク

7/5現在



- 1 つけやすくする為 耳部の幅を小さく
- 2 圧迫感解消の為 上部と鼻部のカーブを大きくしました
- 3 折ズレ防止の為 両サイドを空調服の襟等に取り付ける為
にクリップを取付けました

着装状況



※マスクを空調服装着しました(送風前)

使用状況



送風状態です

使用状況



別の対策(ヘルメット)



ヘルメットも4月より飛沫感染予防の為
大型シールドタイプに変更しました

今後の展開

コロナウイルスが終息しない以上
更なる対策して改良

- 1 今の素材でよいのか？（綿）
- 2 さらに清涼感・付けやすさの向上
- 3 圧迫感の解消
- 4 今季使用状況で問題点の検証